

思おもい堀ぼり①

むかし、むかし、三郎太さぶろうたという若者が住んでいたんだと。

三郎太さぶろうたは、いつも川や沼で鯉こい・鮒ふな・なまず・どじょう等などを取っては、町に売りに行って

いたんだと。三郎太さぶろうたは、おがや注1と二人暮くらして、親孝行おやこうこうな評判ひょうばん息子むすこだったんだと。

そんな三郎太さぶろうたに隣村となりむらのきれいな「お咲さき」という娘が、ほのかに思いをよせていたんだと。

そんなことは、露知つゆしらず真面目まじめ一方いっぽうの三郎太さぶろうたは、毎日判はんでおしたように、魚を取っては町に売りに行くという日を送っていたんだと。

ある時、大雨が続いて、魚取りに出られない日が続いたんだと。三郎太さぶろうたは、空を見上げながら、

「今日あたりは、そろそろよがんべな〜。」

と言うと、おがやが、